

# 大豆だより

第3号

令和5年7月24日発行  
西村山農業技術普及課  
TEL：0237-86-8130

## 開花期のかん水で乾燥ストレスを防止して、収量を上げましょう！

大豆は、開花期～登熟初期にかけて多量の水を必要とします。水分が不足して乾燥が進むと、花数の減少や落花、落莢による結実数の減少、百粒重の低下など、収量に大きく影響します。

開花期に無降雨状態が続く場合には、かん水を実施することで、着莢数の増加や粒の肥大による増加が期待できます。

### 1. かん水

#### ○タイミング、時期

- ☑ 開花期以降に土壤の乾燥が続くとき
- ☑ 降雨の見込みがなく、晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した場合
- ☑ 日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった時期
- ☑ 乾燥が続き土壤表面に亀裂が生じたとき

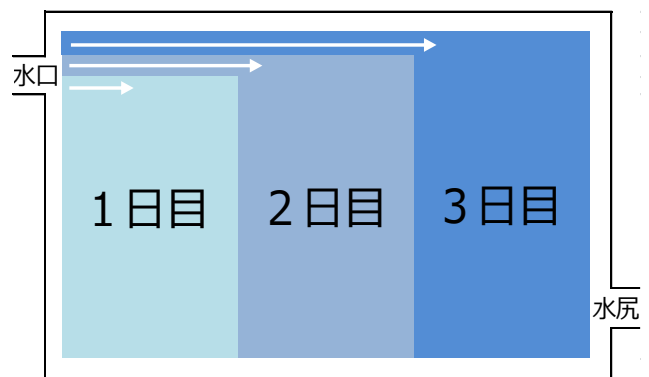


図 畦間かん水方法

※30a 規模の圃場では3日間に分けて徐々にかん水する

#### ○方法

- ☑ 暗渠を閉じてほ場周囲の明渠にかん水し、水分を補給しましょう。
- ☑ 畦間かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ☑ 30a を超えるほ場では、3日間に分けて徐々にかん水を行いましょう。
- ☑ 過度のかん水や排水が不良なほ場でのかん水は湿害を招くので、注意が必要です。
- ☑ この時期は、他の作物も水を必要とする時期ですので、近隣の状況にも十分配慮した上で、かん水可能なほ場で実施しましょう。

**STOP 農作業事故！！あせらず、ゆとりを持って作業を進めましょう！**

**農薬危害防止運動実施中！！農薬を適正に使用し、農薬事故を防ぎましょう！**

**熱中症に要注意！！水分補給をしっかりと行い、適度に休憩をとりましょう！**